

About Shinagawa

品川区プロフィール

▶ 人口総数

392,213 人

うち外国人 12,735 人

出典：品川区公式HP
「住民基本台帳による世帯と人口」
[2018(平成30)年7月1日現在]



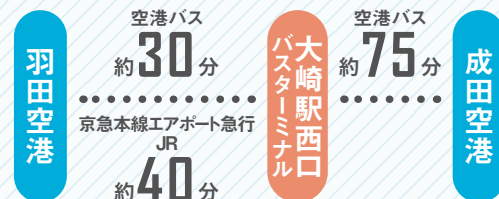
東京湾に面した臨海部と、山の手に連なる台地からなる品川区。古くから交通・交易の拠点として栄え、江戸時代には東海道第一の宿としてにぎわい、明治時代には京浜工業地帯発祥の地として発展してきました。現在も、羽田空港の国際化、品川駅への新幹線乗り入れ、大崎駅西口バスターミナルの整備など、交通の要衝となっています。2027年には、リニア中央新幹線の開業も予定され、品川区は国際都市東京の表玄関として、ますますその重要な役割を担おうとしています。



▶ 品川区のロケーション 交通インフラ

40 駅 14 路線

▶ 空港へのアクセス



▶ 年少人口(0-14歳)

3年で **3,000人**
以上の増加

出典:「品川区の統計」2007(平成19)年-第46回-
「品川区の統計」2017(平成29)年-第56回-

10年前と
比較して約 **13%増**

▶ 合計特殊出生率

1.25

出典:厚生労働省「人口動態統計」HP、
東京都福祉保健局「人口動態統計」HP、
地域振興部地域活動課統計係

▶ 認可保育園定員数

9,925人

出典:品川区調べ
[2018(平成30)年4月1日現在]

10年前と
比較して約 **5,800人増**

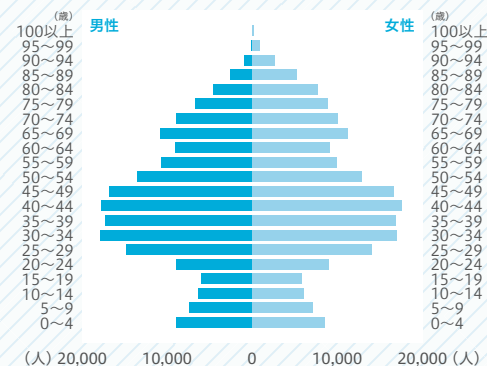
▶ 区民の定住意向

89.0%

出典:品川区世論調査[2016(平成28)年11月]

東京都平均よりも **10.5** ポイント、
区部平均よりも **9.4** ポイント高い!

▶ 人口ピラミッド(5歳階級別人口)



出典:住民基本台帳に基づく年齢(各歳)別人口(2018(平成30)年1月1日現在)

▶ 面積

22.84 km²

出典:「品川区の統計」
2017(平成29)年-第56回-



▶ 公園数

274カ所

出典:「しながわの公園」
2018(平成30)年版

▶ 一人あたり公園面積

3.50 m²

出典:「しながわの公園」
2018(平成30)年版

▶ 日曜開庁

のべ **30** 万人利用



日曜開庁 **10** 年、
行政サービスコーナー **3** カ所
(大井町、武蔵小山、目黒)

▶ 町会・自治会

201



▶ 地目別土地面積

総計 **1,365.65 ha**

79.56 ha **145.42 ha** **928.70 ha** **0 ha** **211.96 ha**



出典:「品川区の統計」2017(平成29)年-第56回-

▶ 商店街

104 カ所

▶ 児童センター

25 館

出典:品川区公式HP
「児童センター一覧」

▶ 指定文化財

142

▶ 大使館

12 カ国

出典:品川区公式HP「品川区内の大使館・領事館の紹介」

▶ 名誉領事館

2 カ国

▶ 総領事館

2 カ国

▶ 品川区民活動
情報サイト
「しながわ
ずまいるネット」

521 団体

▶ しながわCSR
推進協議会
会員

75 社

▶ 防災区民組織

200

▶ 消防団

700 人(定数)

出典:総務省消防庁公式HP
「あなたの街の消防団」

※特に出典の記載のない場合は、品川区調べ[2018(平成30)年7月1日現在]

Timeline

“今”そして“未来”へ
つながるベクトル



東都名所
御殿山花見 品川全図：
歌川広重(初代)



官営品川硝子製造所
(1960年代中頃)

縄文時代(前期) 平安時代(末期) 室町時代 1601年 1639年 1853年 1869年 1872年 1873年 1877年 1914年 1923年

縄文時代～
安土桃山時代

居木橋貝塚を中心に縄文前期の集落が営まれる。
大井氏と品河氏が現在の品川区域を支配。
品川が水上交通・輸送の拠点として発展。
東海道第一番目の宿場として品川宿が設置。
徳川家光が沢庵のために東海寺を創建。「たくあん漬」発祥の地!?

1603～
江戸時代

海防のため品川台場の築造が始まる。
品川～横浜間で鉄道
日本初の近代(後の
モース博士が大森貝塚を発見。日本考古学の



1868～
明治

ガラス工場・興業社設立。
官営品川硝子製造所)
はじまり。
白煉瓦で作られた。
関東大震災発生、多くの被災者が品川区へ避難。
品川区・荏原区が合併、品川区に。初の区長選。
八ッ山橋にゴジラが東京初上陸。
武蔵小山商店街、



品川ゆかりの
幕末・明治の

偉人たち



さか もと りょう ま
坂本龍馬
(1835～1867)

土佐藩郷士。ペリー来航時に江戸警固のため、品川の土佐藩下屋敷にて守備についたとされる。倒幕・明治維新へと続く時代の奔流の中で、数多くの志士に大きな影響を与えた。



いた がき たい すけ
板垣退助
(1837～1919)

土佐藩士。幕末・明治の政治家。幕末には藩の世論を尊王・倒幕へ導いた。維新後、愛国公党、のちに自由党を結成。自由民権運動の先頭に立つ。区内には彼と彼の夫人の墓が残る。





1964年 東京オリンピック 聖火ランナー

大森海岸駅前から浜川中学校前、旧品川区役所前（現品川保健センター）、大崎陸橋を経て目黒区へ。写真は旧品川区役所前。



2016年 区内を縦断するゴジラ

東京湾から上陸し、品川駅前で二足歩行に進化。ハツ山橋陸橋で自衛隊ヘリコプターと対峙した。（映画『シン・ゴジラ』）

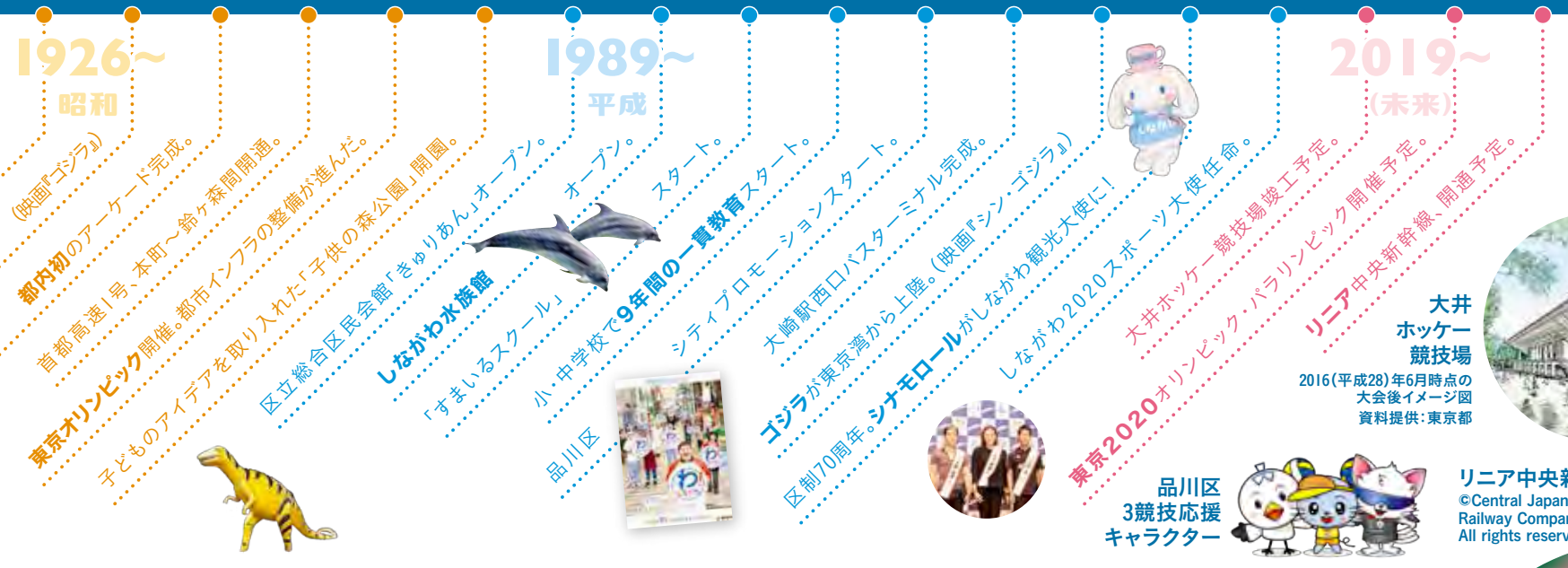
©2016 TOHO CO., LTD.



2017年 全国シティブロモーションサミット2017

2015年からスタートしたシティブロモーション。2017年には「全国シティブロモーションサミット2017 in Shinagawa」を開催。

1947年 1954年 1956年 1963年 1964年 1971年 1989年 1991年 2001年 2006年 2015年 2016年 2016年 2017年 2018年 2019年 2020年 2027年



やまうち とよしげ ようどう
山内豊信(容堂)
 (1827~1872)
 土佐藩15代藩主。幕末四賢侯の一人。土佐藩の藩政刷新に努め、將軍慶喜に大政奉還を建白するなど、幕政にも大きな影響を与えた。立会川付近にあった土佐藩下屋敷に隠居・謹慎していた。



いの うえ まさる
井上勝
 (1843~1910)
 長州藩士。伊藤博文らと脱藩し渡英。鉄道・鉱山学を学ぶ。1871年に初代鉄道頭に就任。翌年、品川・横浜間が仮開通。日本の鉄道創設・発展に尽力。東海寺大山墓地に墓所がある。



い どう ひろ ぶみ
伊藤博文
 (1841~1909)
 長州藩士。維新の功臣。初代内閣総理大臣。倒幕運動に加わり、御殿山英国公使館焼き討ちにも加わる。その後、渡英。維新後は欧米諸国を巡る。憲法制定に尽力。区内に墓所がある。

